

---

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ  
第5回セメントタスクフォース会議（米国サウスカロライナ州チャールストン市）  
議長によるサマリー

---

## I. 緒言

APP セメントタスクフォースの喜多見淳一議長によって、アジア太平洋パートナーシップ第5回セメントタスクフォース会議が開会された。会議は、2008年5月13日から14日、米国サウスカロライナ州チャールストン市のフランシスマリオンホテル（Francis Marion Hotel）で開催された。会議には、前年10月から新たに加わったカナダを加えたパートナーシップ諸国7カ国から、約60人の代表者などの参加があった。

会議は、APP 米国クリーンセメント技術展（APP Exposition of US Clean Cement Technologies）と合同開催された。技術展は、米国商務省の後援のもと、セメントタスクフォース（CTF）のフラッグシッププロジェクト3件のうち1件の活動として行われ、技術の展示のほか、3つの工場をめぐる見学ツアーが実施された。

本会議が始まる前に、議長は、中国四川省の大地震で多くの犠牲者が出たことに対し、中国のパートナーに哀悼の意を表した。

また議長は、この会議から参加するカナダチームを歓迎し、他メンバーに紹介した。カナダは同国のセメント産業と気候変動政策の現状について概要を説明した。

議長はオーストラリアのメルボルン市で開かれた前回のタスクフォース会議以降の出来事と進展（2007年10月にインドのニューデリーで開催されたAPP閣僚会議の決議事項の概要報告を含む）を振り返った。

## II. 協議事項の採択

第5回タスクフォース会議の協議事項案がメンバーによって採択された。議長が、プロジェクトの進展確認と次週に開催されるPIC会議のための具体的な結果作成を主とする、会議の主な目標と手順を定め、会議が開会された。

## III. セメントタスクフォース・アクションプランのプロジェクトの更新と討議

PIC による「タスクフォースへの追加ガイド」(Further Guidance to the Task Forces) に従って、既存のプロジェクト全てに関し、現状と進展が確認された。主なものは以下に示すとおり。

#### CMT-06-01：現状報告

未報告データを求める要求に対し、米国とインドが直ちに報告すると返答し、中国は、2020年までに中国セメント産業全体が CSI CO<sub>2</sub> プロトコルを採り入れる予定であることを表明した。「最良活動」の現状をまとめた報告書の第2セクションに関しては、その妥当性と設計を討議したのち、日本が冊子として発行できるよう原案を作成し、他のメンバーへ送って意見や追加事項を確認することになった。原案の作成は、各パートナー国の最良活動の応用に多様性があることを考慮して行う。

#### CMT-06-02：ベンチマーキング（ベンチマーク開発）

CSI プロトコルを使用したネットとグロスで示した 2015 年までの削減可能値を全 7 カ国から集計し、2008 年の夏までに全体の値を示すよう、タスクフォースとして努力を継続することで合意した。これに関連し、日本が、CTF が作成したベンチマークプロジェクトのワークフローをまとめた文書を紹介した。

#### CMT-06-03：法／規制問題および CMT-06-04：製品の応用

米国が、当プロジェクトに関するこれまでの成果を報告し、今後の進展に大きな期待が持てることを示した。

#### CMT-07-08：バイオマス燃料の利用

米国がバイオマスに関し、またインドが藻類に関し、それぞれこれまでの進展と今後の見通しを紹介した。オーストラリアは、このプロジェクトのもののサブプロジェクトとして新たな藻類のプロジェクトを提案する計画があることを示した。これは、新たなフラッグシッププロジェクトの候補となりうる。

この協議事項に関し、3 件のフラッグシッププロジェクトの進展状況を PIC による「フラッグシップガイドライン」にもとづいて確認するよう、グループに求めた。その内容は以下のとおり。

#### CMT-06-05：技術普及センター（COE）

当フラッグシッププロジェクトの最初の活動として北京で開催された CSI プロトコルのワークショップは成功裏に終わり、後援した WRI および WBCSD/CSI から好評を得た。

#### CMT-0707：有害廃棄物の活用

当プロジェクト下のサブプロジェクト 4 (Sub.4) は、「APP 米国クリーンセメント技術展」として実施された。技術展は、タスクフォース会議と同時に行われ、技術の展示のほか、3カ所をめぐる工場見学が実施された。議長は、Sub.1 が問題なく進展しているかを問い、また、Sub.2 と Sub.3 は計画通りに進んでいると報告された。

#### CMT-07-10:性能診断について

初回の現地調査が中国とインドで行われ、その結果の概要が報告された。両パートナー国は感謝の意を示した。日本は、今後新たに 6 件の調査を行い、診断によって得た結果をまとめ、COE の機構を利用してセミナーを開催する計画を示した。

### **IV. 関連国際活動**

事務局が、エネルギーと CO<sub>2</sub> 指標に関する IEA（国際エネルギー機関）活動の最近の進展状況を報告した。

タスクフォースのメンバーが、世界のセメント業界の持続的発展を目指し WBCSD/CSI が継続して行っている取組みの報告を行った。

### **V. 次のステップと結論**

議長が今後、順調な進展が望めることを示し、タスクフォースのメンバーはそれに同意した。これには、GHG（温室効果ガス）削減ポテンシャル算出の実現、COE を通じた技術普及へ焦点を当てること、また IEA や WBCSD/CSI など他の機関との共同取組みを行うことなどがある。

次のタスクフォース会議の日程と開催場所の決定について討議され、この件は関係者によって別に討議することで一致した。

議長が、主催国である米国、ポルトランドセメント組合（Portland Cement Association）、また全参加者に謝意を示し、閉会した。